

第8回滋賀県多職種連携学会研究大会 報告書

学会テーマ：『多職種連携で支える、その人らしい生き方』

開催日時：令和 5 年 12 月 3 日（日） 13:00～16:30

開催形式：ZOOMを用いてのオンライン開催 当日実ログイン数：170人

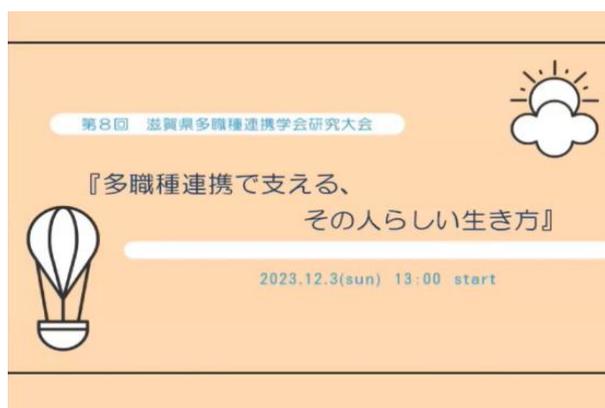
会長：越智 眞一（一般社団法人滋賀県医師会 会長）

実行委員長：大野 辰治（一般社団法人滋賀県病院協会）

●開催概要

開催のあいさつ

学会長挨拶



基調講演

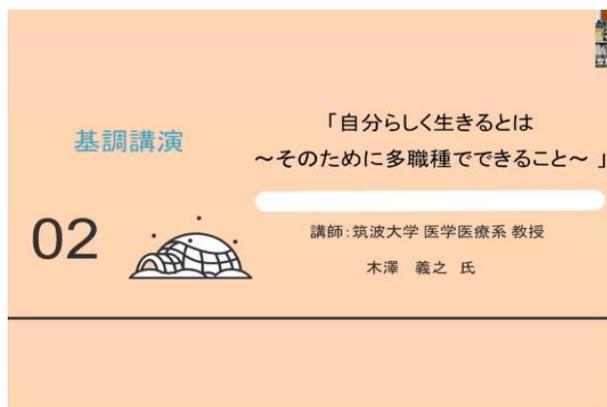
○「自分らしく生きるとは ～そのために多職種でできること～」

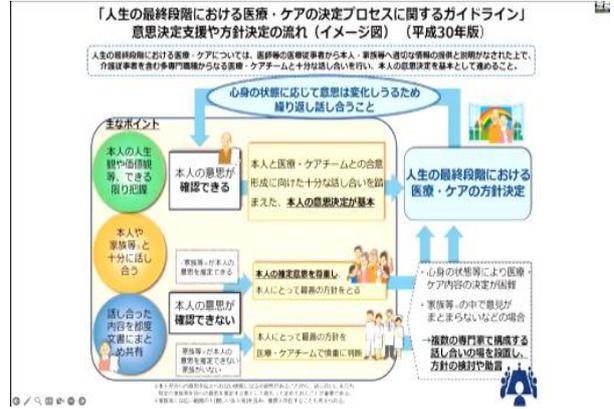
講師：木澤 義之 氏（筑波大学 医学医療系 教授）

座長：堤 洋三 氏（滋賀県老人福祉施設協議会）

（座長コメント）

基調講演では、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考え方を体系的に知ることができた貴重な機会となりました。大切にしていることを尋ね、共に探索し、共感・理解する過程はどの職種においても参考となる内容と言えます。特に木澤先生が現場で実際に発しておられる台詞や患者・家族のエピソードからは、クライアントと向き合う姿勢、言葉の背景や本人の真意をしっかりと見つめる大切さを学ぶことができました。高齢者福祉の分野では、本人が意思の発露をできるケースは多くないことに加え、ご家族等の理解も一様ではありません。できるところからチームとして話し合いの準備を進めたいと思いました。





企画演題

○ 「さまざまな分野での多職種連携 ～地域における薬剤師と多職種での連携～」

講師：池田 富美子 氏 (一般社団法人彦根薬剤師会会長、リリー薬局)

辻 広美 氏 (ケアプランセンターどりーむ ケアマネジャー)

座長：澤谷 久枝 氏 (滋賀県栄養士会)

(座長コメント)

湖東圏域では、「ことう地域チームケア研究会」を軸に、地域の医療福祉を支える関係者が一堂に会して手を繋ぎあえる関係を築いておられます。今回はその活動の一部として、ケアマネジャーのアセスメントを通して、薬剤師さんが在宅に出向き、服薬支援をされた事例を紹介して頂きました。在宅療養をされている患者さんにとって、より近い存在で心強く安心された様子が伺えました。街の薬局は、『街の保健室』として、お薬を中心に困りごとを聞いて下さる身近なパートナーとしても活躍され、この保健室から多職種の繋がりが広がることを期待しております。



在宅療養に薬剤師が介入する意義
【薬剤師自身の目線での分析】

- 飲みやすい剤型や用法・用量を提案 医師と相談して適正化 ← 医療とのつながり
- 支援者が間違えないやり方を模索 より楽にわかりやすく ← 介護とのつながり
- チーム内に共有したいことを伝える 見守りはチームで、報告も密に ← 支援の方向性を同じに

セッション1：症例報告

座長	演題番号	演題種別	演題および筆頭演者
滋賀県言語聴覚士会	7	一般演題	頭部外傷により四肢麻痺を呈した一症例 -多職種連携による自分らしい生活に向けた取り組み- 訪問看護ステーション 結笑 理学療法士 鶴飼 良誠
白石 智順	8	一般演題	小脳出血後重度介助を要した症例の理学療法経験 ～自宅復帰を目指した多職種の関わり～ 滋賀県立リハビリテーションセンター 理学療法士 野村 真悟

(座長コメント)

「症例報告」のセッションでは回復が見られにくいとされている生活期の症例と、予後不良とされる重度の意識障害を伴う小脳出血症例といったリハビリテーションの介入に難渋することが多いケースに対する報告でした。

どちらの報告も難しいケースに対し、生活を見据え多職種で連携することでリハビリテーション環境の設定を行い、効果的にリハビリ介入されているのが印象的でした。リハビリ職だけでなく生活支援チームに携わる様々な職種にとって参考になるセッションであったと思います。

セッション2：多職種での在宅療養支援

座長	演題番号	演題種別	演題および筆頭演者
公益社団法人滋賀県看護協会	1	一般演題	びわこ心不全連携スコアを用いた在宅心不全管理と医療連携の実態 草津市訪問看護ステーション 看護師 倉津 有妃
平岡 千夏	3	実践報告	多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業 ～最後まで自分らしく自宅で過ごせるために～ 陽だまり居宅介護支援事業所 介護支援専門員 山本 高巳

(座長コメント)

(演題番号1)循環器疾患をお持ちの方が、心不全を予防、発症を遅らせることができるよう、心不全で加療中の方が少しでも長く療養できるよう、手帳のような共有ツールを活用され、患者管理と医療連携を実践されていることは素晴らしい取り組みだと思います。

その実践を研究的視点でまとめられ演題発表していただいたことで、他の訪問看護ステーションへの波及効果やその他の関係機関にも知っていただく機会になり、大変良かったと思います。

(演題番号3)多職種連携事業として、市民講座と専門職向けの研修会を企画、実施していただき、住民のニーズが明らかになり支援者にはチーム連携の必要性が高まる機会になったことは大変良かったと思います。今回は活動実践報告として発表していただきましたが、これを一般演題として学会などに発表していただく上でのアドバイスとして、評価について申し上げます。目標に向けて何らかの事業を企画して、いくつかの事業を実施することで、目標達成を目指すと思いますが、そのプロセスで、3つの評価をしていただくと、発表演題として、良いものに繋がりますので、簡単にお伝えします。まずは①企画評価これは目標設定

ができていたか、ニーズに即していたか、企画した事業が妥当であったか等々を評価します。②実施評価これは実施した研修等の回数や参加者の状況、満足度などを見て評価します。③結果評価（アウトカム評価）これは目標の達成度を見るものです。例えば研修の前と実施後で評価する方法が一般的にあります。最後に、「今後に向けて」のところに書いていただいている、様々な気づきに対して、今後も引き続き、取り組んでいただきますようお願いいたします。

一般演題/活動実践報告発表 ブレイクアウトルーム

セッション1：リハ専門職と地域

座長	演題番号	演題種別	演題および筆頭演者
滋賀県障害者自立支援協議会	4	一般演題	地域包括支援センターとの合同研修会を通して病院勤務の療法士が得たもの ～研修後アンケート結果の分析～ 市立野洲病院 リハビリテーション課 理学療法士 田中 元輝
大平 眞太郎	5	一般演題	高齢障害対応におけるリハ専門職の役割 知的障害児者地域生活支援センター 作業療法士 加納 雪絵

(座長コメント)

一題目は病院等のリハ専門職が支援対象者である高齢者の退院にあたり、当事者の状態を地域の支援者にしっかりと伝えていくこととそのための関係づくりの重要性についての実践であった。二題目は、知的障害があるものの要介護状態ではなかった人が高齢化により介護が必要になった場合に、それらを想定していないグループホームにおいて支援しつづけられるようにリハ専門職が関わった実践であった。双方とも、高齢化による障害の重度化に対して、地域においてリハ専門職が関わることで、生活の質を保ったり高められるという興味深い報告であった。

セッション2：甲賀圏域を中心とした多職種での活動

座長	演題番号	演題種別	演題および筆頭演者
滋賀県介護福祉士会	2	実践報告	排泄自立プロジェクトと抱え上げない介護をつなぐ取り組み ～おむつフitter1級メンバーのつながり～ 甲賀市役所 健康福祉部 すこやか支援課 介護福祉士 服部 直子
山口 路子	6	実践報告	みんなでe-こうかの挑戦 ～甲賀圏域で取り組む職種を超えた協働の基盤づくり～ みんなでe-こうか 社会福祉士 大谷 喜久

(座長コメント)

セッション2では、甲賀市で一緒に活動しているメンバーからの報告でした。どちらとも「多職種連携、という名目の下、始まった活動ではなく、それぞれが目指す理想の状態に対し「自分も何かできるんじゃないか」という個々の想いから動き出している点、また上下関係や立場に縛られず、フ

ラットな関係性で役割が構築されている点などが“多職種連携”の本質についているのではないかと、改めて考えることができました。



びわこ心不全連携スコアを用いた在宅心不全管理と多職種連携の実態

社会医療法人誠光会 草津市訪問看護ステーション
看護師：倉津 有妃
新村 真喜子

社会医療法人誠光会 草津総合病院
医師：和田 厚幸 松本 武洋

滋賀県立総合病院
医師：犬塚 康考

まとめ

- ①びわこ心不全連携スコアは、酸素飽和度以外は特別な器具を使用せず評価ができ、**誰にでも使いやすい指標**である。
- ②簡易的に標準化された指標が、**適切な時期(3点以上)に病院受診を促す判断基準**となり、心不全入院を抑制することができた。
- ③びわこ心不全連携スコアを活用しつつ、情報共有ツールを併用することで**病状の変化を客観的に捉える**ことができる。
- ④心不全スコア認知度が低く使用者が少ない事が課題。その人らしい暮らしを支えるためスコアの利用が広がるような取り組みが必要。

学会長賞 演題番号1 びわこ心不全連携スコアを用いた在宅心不全管理と医療連携の実態

草津市訪問看護ステーション 看護師 倉津 有妃

閉会のあいさつ

実行委員長挨拶



《協賛ご芳名一覧》(※敬称略・五十音順)

一般社団法人滋賀県医師会・一般社団法人滋賀県介護老人保健施設協会・一般社団法人滋賀県作業療法士会
一般社団法人滋賀県歯科医師会・一般社団法人滋賀県歯科衛生士会・一般社団法人滋賀県薬剤師会
公益社団法人滋賀県栄養士会・公益社団法人滋賀県看護協会・公益社団法人滋賀県社会福祉士会
公益社団法人滋賀県私立病院協会・公益社団法人滋賀県理学療法士会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
滋賀県言語聴覚士会・滋賀県立リハビリテーションセンター

《協賛広告ご芳名一覧》(※敬称略・五十音順)

一般社団法人滋賀県老人福祉施設協議会・医療法人幸生会琵琶湖中央リハビリテーション病院
社会福祉法人六心会